

DB01686

2000

(16)

筑波大学 学位（博士）請求論文

動詞の自他の構造と意味

佐藤 琢三

寄	贈
佐藤琢三氏	平成 年 月 日

01003528

目次

動詞の自他の構造と意味

序章 — 本論の構成 — (9)

第 I 部 動詞の自他対応とヴォイスの構造 (12)

第 1 章 ヴォイスの体系と動詞の自他対応 (13)

1. はじめに (13)

2. 先行研究 (14)

2.1. 仁田(1981) (14)

2.2. 寺村(1982) (17)

2.3. 益岡(1987) (19)

2.4. 村木(1991a) (21)

- 2.5. 本研究の基本的方針 (22)
- 3. プロトタイプによるヴォイスの概念規定 (24)
- 4. 原型的ヴォイスの類型 (27)
 - 4.1. 使役 (27)
 - 4.2. 自他対応 (28)
 - 4.3. 非原型的ヴォイスの諸類型 (29)
 - 4.4. まとめ (30)
- 5. 原型的ヴォイスの体系性 (31)
- 6. おわりに (35)

第2章 相対自動詞と受動態 (36)

- 1. はじめに (36)
- 2. 現象の分類と用語の定義 (36)
 - 2.1. 自他対応の定義 (36)
 - 2.2. 対応の有無と動詞の分類 (40)
 - 2.3. 受動文の分類 (41)
 - 2.3.1. 与格受動文と非与格受動文 (41)
 - 2.3.2. 直接受動文と間接受動文 (42)
- 3. 相対自動詞と受動態の関係 (43)
 - 3.1. 自動構文の階層 (43)
 - 3.2. 意味的側面 (44)
 - 3.2.1. 被害性 (44)
 - 3.2.2. 動作主・原因など (47)

- 3.2.3. 主語における結果性 (48)
- 3.3. 統語的側面 (49)
 - 3.3.1. マーカー (50)
 - 3.3.2. 項の数 (51)
 - 3.3.3. 動詞の種類 (52)
 - 3.3.4. ヲ格との対応 (53)
- 3.4. 現象の総括 (55)
- 4. おわりに (57)

第Ⅱ部 自他対応の原理と意味構造 (58)

第3章 自他対応の成立条件 (59)

- 1. はじめに (59)
- 2. 先行研究 (60)
- 3. 相対他動詞の意味構造 (62)
 - 3.1. 動作過程の様態指定 (63)
 - 3.2. 対象における結果性 (69)
 - 3.3. 相対他動詞の意味構造の定式化 (71)
- 4. 自他対応の原理 (72)
- 5. おわりに (73)

第Ⅲ部 自動詞的表現の諸相 (75)

第4章 「変化」を表さないナル (76)

1. はじめに (76)
2. 問題とする現象 (77)
3. 先行研究と本論の立場 (79)
 - 3.1. 先行研究 (79)
 - 3.2. 本論の立場 (82)
4. 計算的推論のナル (83)
 - 4.1. 計算的推論のあらまし (83)
 - 4.2. 計算的推論の背景 (88)
 - 4.2.1. ナルの多義性 (88)
 - 4.2.2. 「変化」のナルと「計算的推論」のナルの関係 (89)
 - 4.2.3. ナルの意味と計算的推論 (91)
 - 4.3. まとめ (92)
5. 对人的行為のナル (92)
 - 5.1. 对人的行為のナルの語用論的要因 (93)
 - 5.1.1. 聞き手に対する関与性 (93)
 - 5.1.2. 話者の側に責任のある事柄を述べる状況 (94)
 - 5.1.3. 話者のアピールする態度 (95)

5.1.4.	まとめ	(97)
5.2.	対人的行為のナルの本質と背景	(97)
5.2.1.	対人的行為のナルの本質――その意味機能と発話機能――	(97)
5.2.2.	対人的行為のナルの背景	(99)
5.2.2.1.	文法的特徴の背景	(99)
5.2.2.2.	語用論的諸要因の背景	(99)
5.2.2.3.	本質的性格の背景	(100)
5.2.3.	他の用法との関連	(101)
5.2.3.1.	意味拡張の原理	(101)
5.2.3.2.	ナルの意味の適用領域と多義性	(102)
5.3.	まとめ	(103)
6.	おわりに	(104)

第5章 ナツテイルによる単純状態の叙述 (106)

1.	はじめに	(106)
2.	問題の所在	(106)
3.	認知的観点からの関連する研究	(108)
3.1.	痕跡的認知：国広(1985)	(109)
3.2.	Subjective Change：Matsumoto(1996a)	(110)
3.3.	単純状態のナツテイルを考える上での問題点	(111)
4.	ナツテイルの諸側面	(113)
4.1.	原因の含意	(113)
4.2.	機能の叙述	(115)

- 4.3. 構成の叙述 (116)
- 4.4. まとめ (119)
- 5. 変化の結果のナツテイルとの関係 (119)
 - 5.1. ナツテイルのスキーマ (120)
 - 5.2. ナルの基本義と諸用法 (120)
- 6. おわりに (122)

第IV部 他動詞的表現の諸相 (124)

第6章 行為を表す動詞をめぐって (125)

- 1. はじめに (125)
- 2. 現象の概要 (126)
 - 2.1. 用法の分布 (126)
 - 2.2. 考察対象の概観 (127)
- 3. 統語・形態面の特徴 (128)
 - 3.1. 単純型と複合型 (128)
 - 3.2. 語彙項目の形成 (129)
 - 3.3. 統語・形態面のまとめ (131)
- 4. 意味的特徴 (131)
 - 4.1. 意図性 (132)

- 4.2. 動作性 (132)
- 4.3. ヲ格名詞の意味的性質 (134)
- 4.4. 意味的特徴のまとめ (135)
- 5. 「する」と「やる」の本質的性格 (136)
 - 5.1. 「する」の本質的性格 (136)
 - 5.2. 「やる」の本質的性格 (137)
- 6. おわりに (138)

第7章 他動詞表現と介在性 (139)

- 1. はじめに (139)
- 2. 現象の位置づけ (139)
 - 2.1. 介在性の表現 (139)
 - 2.2. 他動詞表現の意味的バリエーションとしての位置づけ (142)
- 3. 介在性の表現の成立要因 (144)
 - 3.1. 基本的性格 (144)
 - 3.2. 成立要因 (145)
 - 3.2.1. 事態の結果のコントロール (146)
 - 3.2.2. 動詞の意味的焦点 (148)
- 4. おわりに (150)

注釈 (152)

参考文献 (173)